

余友涵



ユウ・ヨウハン Yu Youhan
1943年上海生まれ。73年に北京の中央工芸美術学院（現清華美術大学）を卒業。上海在住。90年代の前衛芸術運動における政治ポップアートの最も代表的なアーティストの1人。M+美術館（香港）の「M+ Sigg Collection」展に出品。

90年代中国の前衛芸術を代表する
ペインターに訊く

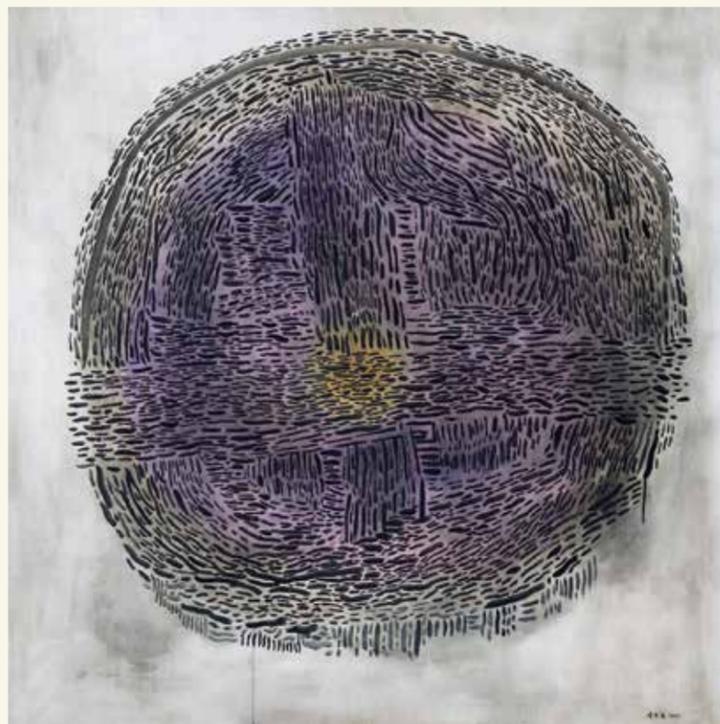
八五美術運動の影響を受けた、1990年代の中国における政治色を含んだポップアートの代表作として知られる「毛沢東」シリーズなど、中国現代絵画において新たな表現を追求している余友涵。西洋の絵画技法と中国の伝統文化の間でどのような自らの作風を確立したのだろうか。

— 上海の新型コロ

ナウイルスの感染状況が深刻化していますが、生活や制作には影響はありますか？ 毎日のくらの時間をかけて制作していますか？

私が住んでいる上海の近隣地域はもう2ヶ月近く閉鎖されていて、ごく狭い範囲しか活動できません。アトリエにも行けないので、小さなノートに色鉛筆やマーカーでドローイングを描いています。制作時間は特に決めず感

【抽象1985-5】1985年 アクリル、キャンバス 135×135cm Courtesy of artist and ShanghART Gallery



覚に任せていますが、最近では体力の衰えからその傾向が強くなっています。

— 初期の印象派風の風景画から抽象画の「円」シリーズ、80年代後半のポップアート「毛沢東」シリーズへと変化し、2000年以降から再び「円」に回帰しました。テーマが変わったきっかけは何ですか？

文化大革命（1966〜76）の後半に上海の美術工芸学校で教えながら制作を始め、70年代後半の中国が経済建設に転じた時期をモチーフにしました。80年代に入って中国現代絵画を探索するようになり、85年に抽象の「円」（上掲出作）シリーズを制作しました。その後社会・政治情勢が落ちつき、中国の伝統的なモチーフと政治的プロパガンダ絵画を組み合わせた歴史画と呼ばれる「毛沢東」シリーズ（左頁上掲出作）、中国の労働人民を描いた「あ、私たち」シリーズ、2000年以降は「沂蒙山風景」シリーズ（右掲出作）を制作しています。03年に学校を退職してからは、風景画を描く一方で「円」シリーズへと回帰し、再び純粋絵画を制作したいと考えました。



【沂蒙山 22】2006年 アクリル、キャンバス 168×299cm Courtesy of artist and ShanghART Gallery

— 短期間に制作された「毛沢東」シリーズは、アート市場でも注目を集めました。なぜ毛沢東を描こうと思ったのですか？

50〜70年代の国家元首の存在や政治運動が国民の共通の記憶としてあるので、60〜70年代は国家元首の写実的な肖像画を何枚も描きました。改革開放後の80年代後半によく自分なりの手法で元首に対する思いを表現できるようになりました。私の作品では元首を神格化するのはなくひとりの人間として扱っています。そして伝統的な美術工芸のモチ

ーフと元首のイメージを組み合わせ、温かみを与えると同時に従来の中国美術を再考しようと思いました。70〜80年代に西洋の近代美術を研究したので、西洋の美術評論家は私を中国と西洋の絵画技法を組み合わせる作家として促しているようです。他にも兵役中（1961〜65）も絵を描き続けたことで、大学進学が有利になりました。

— 「円」シリーズはライフワークとも言えますが、円を描く意味を教えてください。

どんな物事も基本単位は単純で、組み合わせることで無限になります。コンピュータは数字の0と1の組み合わせによって音やイメージを表現することができ、私もそれと同じように、点と線を使って、画面に表れるイメージそれ自体だけでなく、抽象的なテーマを暗示したいと思っています。単純さと複雑さ、静寂と喧騒、一瞬と永遠、虚無と創造など、相反するものを可能な限り統合しようと思いました。

宇宙の万物を表すために思考と実践を繰り返す中で、やがて単純な「円」が主なイメージとなりました。「円」はあらゆるものの始まりと終わりを示し、循環や輪廻、調和、寛容さ、包容力を表しています。また円は点でも面でもあり、ミクロの素粒子とマクロの総体から成り立ちま

す。円は空虚とともに豊富な意味も持ちます。私は一連の円シリーズで宇宙への崇拜を表現したいと思っています。

かつて老子は「道は一を生み、二は二を生み、三は万物を生む」と言いました。世界の原点を「一」とし、「円」を用いて万物を讃え、躍動感あふれる「万物の形」を作品にしました。「円」はシンボルであり、精神の象徴でもあります。

— 中国と西洋の抽象表現の違いをどのように捉えていますか？

西洋の抽象表現は具象への反発から始まり、個人の宗教性や精神性を強調しています。それに対して中国には「書画同源」という伝統的な考え方があり、抽象と具象の間に明確な境界はなく、「似ていることと似ていないことの間」を追求することへの理解があります。私にとって抽象も具象も同じ表現で、人も景色もすべて画面を構成する要素なのです。

— 中国の現代アートと呼ばれる作品にとって重要なことは何だと思えますか？

まず、洋の東西を問わず、美術史は多くの作品を遺してきました。ひとりの作家として独自の表現言語を作りながら、美術史を参照・発展させていくことが重要です。次に、アートは時代精神を反映し

なければなりません。私たちは自身が生きている世界に対してそれぞれの認識もっています。アーティストは、その認識を表現することで、作品を生きたものにするのができるのです。

そして、アートを創造するためには、自分の感情をコントロールし、作品に昇華する必要があります。私は絵画を通じて、秩序や調和といったより本質的なものを表現しています。現代アートは、単に私的な感情だけでなく、感情と思想を高度に両立したイメージを追求すべきだと言えるでしょう。

— 新中国建国と改革開放を生き抜き、50年間以上にわたって創作活動を続けられたのはなぜでしょうか。

絵が好きで私にとって、制作はとても自然な行為だといえます。シェフが料理によって調理方法を変えるように、作品を描くときは、細部まで計算するよりも試行錯誤するようになっていきます。80年代から今日まで概ね一貫したテーマですが、構図や表現をより広げていきたいと考えています。

— 今後の展示予定を教えてください。

年内に和美術館（広州）で回顧展があり、来年は北京でも学術研究展を開催する予定です。

※1980年代半ばに中国で起こったモダニズム美術運動。改革開放政策によって入手可能となった西洋の哲学書や美術書などに触発された若いアーティストたちは、西洋のパフォーマンスやインスタレーションを模倣した作品を多数制作した。